

氏名	添田 啓子	部署	看護学科	職名	教授
研究分野	小児看護学				
学位	博士(看護学)				
学歴	1980年聖路加看護大学看護学部、1992年聖路加看護大学大学院研究科(博士前期課程看護学専攻)、2005年兵庫県立看護大学大学院看護学研究科博士後期課程。				
経歴	1986年聖路加看護大学助手、1993年埼玉県立衛生短期大学看護学科講師、1999年埼玉県立大学保健医療福祉学部看護学科講師、2005年同助教授、2008年同教授。2015年文部科学省専任教員資格審査博士後期課程D○合				
所属学会(役職)	日本小児看護学会(理事(診療報酬担当)、評議員、専任査読者)、日本小児保健協会、看護科学学会、				

【2017年度実績】

1. 研究業績					
	著作・論文・学会発表等の名称	単著・共著の別	(1)発行所、全ページ数 (2)雑誌名、巻(号)、開始-終了ページ (3)学会名、開催都市	(1)(2)著者、編者名 (3)発表者(発表者は○印)	発行・発表年月
(1) 著作					
1	該当なし				
2					
3					
(2) 論文					
1	Effectiveness of role-play in hazard prediction training for nursing students: a randomized controlled trial	共著	Journal of Nursing Education and Practice, Vol 8, No 2, (2018)、1-7.	Yasuyo Sato, Sachiko Okamoto, Kazunori Kayaba, Hiroaki Nobuhara, Keiko Soeda	2018.1.
2	ロールプレイを用いた危険予知トレーニングの効果の検証 —イラスト使用との比較—	共著	(1)(2)(3)保健医療福祉科学 2017:7:87-91	佐藤安代,岡本佐智子,萱場一則,延原弘章,添田啓子	2018.3.31.
3	「いきいき」働く中堅看護師が「いきいき」働くための要素を獲得するプロセス	共著	保健医療福祉科学 2017:7:7-13 7	中込洋美,横山恵子,添田啓子,延原弘章	2018.3.31.
(3) 学会発表					
1	オレムセルフケア不足理論を取り入れた看護実践の変化～記録監査の結果から～	共著	(1)日本小児看護学会第27回学術集会、307、(2)日本小児看護学会第27回学術集会講演集、274ページ、(3)日本小児看護学会第27回学術集会、京都	○岡崎智美、櫻井育穂、添田啓子、田村佳士枝、望月浩江、株崎雅子、近藤美和子、長場美紀、久保良子、黒田京子	2017年7月14日発行、2017年8月19日発表
2	テーマセッション:2017こどもセルフケアカンファレンス～こどもの力を引き出す看護を作り出そう～第3弾	共著	(1)日本小児看護学会第27回学術集会、307 (2)日本小児看護学会第27回学術集会講演集、71ページ (3)日本小児看護学会第27回学術集会、京都	(3)○片田範子、及川郁子、○加藤令子、勝田仁美、○添田啓子、○中野綾美、○原朱美、○河俣あゆみ、○笹山睦美、他18名	2017年7月14日発行、2017年8月19日発表
(4) その他					
1	該当なし				
2. 競争的資金等の研究					
	競争的資金等の名称	研究名、研究代表者・研究分担者の別			研究期間
1	科学研究補助金基盤C	親のケア能力・子どものセルフケア能力獲得を支援する看護師の教育・指導力の発展、研究代表者			平成28-30
2	科学研究補助金基盤A	オレムセルフケア理論を基盤とした「こどもセルフケア看護理論」の構築、研究分担者			平成27-30
3. 教育業績					
	講義・演習・実習・論文指導等の名称	期間	概要(教育内容・方法等において工夫した点)		
(1) 講義					

1	大学院博士後期課程 次世代育成看護論	前期	学生の研究領域に合わせて小児看護の質的研究の文献を紹介し、質的研究の研究プロセス、研究意義、研究方法等について、説明・討議した。
2	大学院博士前期課程「保健医療福祉研究法特論」の質的研究法	前期6月	保健医療福祉の質的研究法について、その特徴、適する研究課題、研究方法について概説した。データ収集方法インタビューと分析の演習をグループで行った。また、文献抄読を行った
3	大学院博士前期課程看護学専修看護理論	前期	学生が自らの看護実践を振り返り、臨床で使われる看護理論について学び、理論を用いて実際に事例分析を行う。学生が理論を使った事例分析を行い、自己の看護と理論を結び付けて使えるように工夫している。
4	看護学科1年次小児看護学Ⅰ総論	後期	小児看護学の総論として、小児看護の目的・対象・方法、こどもをめぐる社会の現状、小児看護の根拠法令、こどもと家族、こどもの権利擁護、こどもの成長発達と発達評価、こどもの健康課題、予防接種等について、講義とワークシートを用いたアクティブラーニングの手法を取り入れて授業した。
5	ヒューマンケア論	前期	科目担当者として、学生の学習が有効に進むように授業を運営し、非常勤講師やゲストスピーカーの対応、レポート評価等を行った。
(2) 演習			
1	大学院博士後期課程 次世代育成看護論演習	後期	学生の研究領域に合わせて家族看護の質的研究の文献を紹介し、学生と研究方法について、検討を行った。
2	学部看護学専門科目 こどもと家族のヘルスプロモーション	前期	地域の様々な場や病院と在宅をつなぐ部門で、多様な健康状態にある子どもと家族の健康課題・ニーズについて理解し、ニーズに対応し健康を促進する看護について学ぶ。新しい演習としてグループワークと隣地の専門家へのインタビュー、学んだことを発表する演習を構築、実施した。学生は主体的に学び、好評であった。
3	学部看護学専門科目 小児看護学Ⅲ	後期	PBLチュートリアルで、事例の対象理解と発達像・健康像・生活像の把握、全体像の把握、回復を促す看護の方向性の検討を行った。事例は、口唇口蓋裂の乳児、喘息の幼児、川崎病の幼児であった。
4	学部看護学専門科目 小児看護学Ⅳ	前期	小児看護学Ⅲで学んだ事例を用いて、小児看護に必要な技術演習を行った。演習で習得した知識・技術・態度を確認するため、技術テストを実施、学生の個別評価を行った。
5	大学院留学生(山西医科大学)の指導	2017通年	学生は、小児喘息の疫学、影響因子、看護について、日中の比較について調査し、報告をまとめて発表した。また、さいたま市民医療センターにて、アレルギーエドゥケーターの2日間の見学実習を行った。
(3) 実習			
1	博士前期看護学専修 小児実践看護実習Ⅰ	前期6月	周手術期・急性期において複雑な課題を抱えた子どもとその家族に対して、小児看護専門看護師として必要な専門的知識と的確な臨床判断、および熟練した技術を用い、高い倫理観を持つ態度で、多職種と共に質の高い看護を提供する能力を養う。学生の実習目的に合わせ、新規実習施設の開拓、実習を実施した。
2	博士前期看護学専修 小児実践看護実習Ⅱ	後期12-2月	小児看護専門看護師の役割(実践、コンサルテーション、コーディネーション、倫理調整、教育)の実際を学ぶ。また、小児看護専門看護師の役割を実践し、実践した内容を分析、評価、レポートし、討議することを目標に、学生の目的に合わせて新たな実習施設を開拓し、実習を実施した。
3	小児看護学実習	後期8月、11-12月	子どもの病気・障害や療養の状況に合わせて、生命力の消耗を最小限にし、健康に向けて生活過程を整える看護を実践する。また、子どもとともに子どもの療養を支える家族も看護の対象ととらえ支援する。これらの実践を通して子どもの対象特性を理解し、子どもの看護に必要な知識・技術・態度を修得する。
4	総合実習	前期7月	既習の知識やこれまでの看護実践を踏まえて、看護学における自己の学習課題について看護活動を通して探求し、専門職者に求められる総合的な看護実践能力を身につける。添田は小児看護領域の総合実習の運営と学生カンファレンス、報告会に関わった。
5	IPW実習	後期10月	IPW実習の目的に応じて、4年次学生5名を指導した。
(4) 論文指導			
1	大学院博士後期課程 論文副指導	通年	ロールプレイを用いた危険予知トレーニングの効果の検証ーイラスト使用との比較ーRCTを用い教育効果を検討した研究、学生は論文2本を投稿し掲載された。
2	大学院博士後期課程 論文副指導	通年	中堅看護師の教育プログラムの作成のための質的研究。「いきいき」働く中堅看護師が「いきいき」働くための要素を獲得するプロセスを学生が投稿し、掲載された。

3	大学院博士前期課程 論文副指導	通年	医療観察法の入院医療における作業療法実践—作業療法士が多職種チーム医療において貢献できること—修士論文の研究方法を指導し、学生は最終審査を経て修了した。	
4	大学院博士前期課程 論文指導	通年	「出生後すぐに手術を要する先天性心疾患をもつ子どもの父親の思い」研究計画を作成、デザイン発表し、倫理申請を行った。	
5	学部卒業研究 論文指導	通年	入院中の病児のきょうだい支援の現状と課題～病院管理者とボランティア団体双方の視点から～ 県内病院の実態調査と、関東圏のボランティア団体のインタビュー調査を行い、論文を作成した。	
(5) その他				
1	大学院博士前期課程論文審査 主査	後期10-2月	1名	
2	大学院学生の質的研究ゼミの指導	通年	大学院博士前期課程の学生の質的研究ゼミを指導した。月1回。	
3	大学院への山西医科大学大学院留学生の研究指導	通年	学生は、小児喘息の疫学、影響因子、看護について、日中の比較について調査し報告をまとめた。	
4. 社会貢献活動				
(1) 講演会、研修会等の講師				
	講演会、研修会等の名称	主催	講演、研修等のテーマ	開催年月
1	看護学生実習指導者講習会	埼玉県看護協会	小児看護学実習の展開	2017.6
2	埼玉県看護協会第9支部研修 平成29年度看護研究に関する研修会	埼玉県看護協会 第9支部	護研究における 質的データのまとめ方 学会発表のコツ	2017.6.3.
1	埼玉県青少年夢の懸け橋事業	埼玉県青少年課	「看護師になろう」	2017.9.23.
3	オレム推進会議活動報告会 講評	埼玉県小児医療センター	発表された部署ごと活動の講評	2018.2.23.
4	平成29年度 第2回養護教諭・看護教員合同研修会	埼玉県教育局特別支援教育課	「養護教諭と看護教員の協働について」	2017.12.26.
(2) 国、自治体、財団法人等における委員等				
	国、自治体、財団法人等の名称	委員等の名称	任期	
1	一般社団法人日本看護系大学協議会	教育評価検討委員会委員	2016.8.22-2018.6.	
2	一般社団法人日本小児看護学会	理事 診療報酬検討委員会担当	2017.6-2019.6.	
3	一般社団法人日本小児看護学会	評議員	2017.6.-2021.6.	
4	一般社団法人日本小児看護学会	専任査読者	2014.9-2018.8.	
5	埼玉県教育局県立学校特別支援教育課	看護教員・養護教諭合同研修会講師	2017.12.26.	
6	埼玉県教職員採用課	教員採用選考試験第2次試験員	2017.8.21.	
(3) ジャーナリズムでの発言				
	メディア等の名称	内容	年月	
1	該当なし			
5. 学内運営(委員会委員)				
1	教育開発委員会委員			
2	20周年記念誌編集委員会			
6. 受賞(研究、教育、社会貢献活動に関するもの)				
	受賞名	主催	受賞年月	
1	該当なし			
7. 特許の保有状況				
	特許名	特許番号	登録年月	
1	該当なし			
8. 特記事項				
	該当なし			